



News Letter

日中交流の10年を振り返る

楊建中

2022/3/31

2012年4月2日、一般社団法人日中化粧品国際交流協会が神戸で設立され、今月でちょうど10周年を迎える。当時、中国の一人当たりの化粧品消費額はまだ日本の1/10にも及ばなかったが、毎年二けた成長という高成長期に入っていた。一方、法規制から技術までまだまだ未熟な部分が多かった。それに対し、日本の化粧品市場は既にその十数年前から飽和状態であったが、ブランド力、技術力などのソフトパワーでは中国をはるかに上回り、幸いにも皮膚や髪の生理特徴において日本人と中国人では大差がなく、化粧品に対するニーズも共通している。正に完璧な補完関係である。

思えば2012年は日中関係の緊張が続く最中だった。従って、設立当初は懸念や心配の声もあった。しかし筆者としては、日中友好ありきの関係構築ではなく、交流を通して相互理解を促進しウイン・ウインを目指す協力関係を導くことに専念したい一心であった。10年経った今、日中の会員企業数は161社にも上り（中国101社、日本60社）、当初からの信念は正しかったと確信している。

10年はあっという間に過ぎたが、色々な出来事があった。2013年11月、神戸で初めて日中交流イベントを開催した。中国から約30名の会員企業代表や専門家が来日し、日本側と合わせて約70名の参加であった。初日は講演や懇親会を行い、二日目は中国側企業のための日本会員側である花王と日本コルマーへ見学訪問であった。日本観光やビジネス訪問がまだ盛んではない時期だけに、中国の訪問者にとってあらゆることが新鮮で刺激的だったようだ。2019年11月、大阪で10回目の日中交流イベントが開催され、既に何回も訪日した中国側企業も含め双方合わせて200名以上が二日間に渡るイベントでビジネスチャンスを見出し大盛況に終わった。

2020年年初から全世界で新型コロナが流行し、以来日中間で人の往来がほぼ停止状態に陥っている。交流イベントの開催が不可能な状況の中、2020年9月より、オンラインで日本側会員企業によるライブ配信のウェブセミナーを今月までに11回開催し、中国の化粧品業界関係者を中心に視聴者は毎回平均4,000人以上で、ウイズコロナの新しい交流ルートとして手応えがあり、その効率の良さからコロナ収束後も継続していく予定だ。

10年間で、オンラインとオフラインの交流イベントをそれぞれ10回以上主催しただけでなく、日本と中国において各種の小規模セミナーの開催や化粧品業界イベントの共催や協賛も数多く行って来た。そして、ホームページやSNSによる発信や会員企業に対するコンサルティングや1対1のマッチングも日常的に行なって来た。これらの交流促進活動を通して日中会員

同士の協力関係がたくさん生まれた。会員企業の企業機密になるので、あまり具体的に言えないが、2020年に実現したポーラ化成と雲南白薬の共同研究の実例は既に双方によって公開され、周知の通りである。

10年経った今、中国の一人当たり化粧品消費額は既に日本の約1/10から1/5までにも達したが、まだまだポテンシャルが高い。また、コロナ禍前まで中国観光客による日本化粧品の「爆買」もあり、数年前から日本は中国市場における輸入化粧品のトップの位置にいる。10年前に言った言葉が甦る、「中国市場には色々なリスクがあるが、関わらないことは一番のリスクだ」。正にその通りだ。

11年目に入った日中化粧品国際交流協会、今後のあるべき姿について展望しよう。新型コロナウイルスの流行により2019年11月の交流イベント開催以来、人の往来がないままの状態が続いたが、昨年後半から1対1マッチングのニーズが徐々に回復する傾向が見られ、日中間における交流と協力の需要が依然高いことが伺える。コロナ収束後の期待が持たれる。

日中化粧品国際交流協会は今後も時代の変化に合わせ、主要テーマを絞りながら日中化粧品業界間の架け橋として交流や協力関係の構築を促進する役割を果たしていく一心だ。そのキーワードの一つに「日中共創」があり、10年間の交流仲介役の経験から生まれた発想だ。とはいえ今は10年前と異なり、既に日本市場まで進出してきた中国資本や化粧品ブランドがある。日本の匠心を活かした設計や開発、中国の資金力が加われば、日本市場においても、中国市場においても可能性が広がる。この分野における成功例は今後どんどん出てくると思う。しかし一方で、日中間でコストとスピードに対する考え方の相違がネックになるケースも少なくない。両方の違いを理解できる調整役が必要であり、ここでも協会は一役を担っていると自負している。

更に、「SDGs」も今後日中交流と協力のキーワードになるろう。「SDGs」はグローバル規模で決めた目標であり、化粧品の分野では日本は中国を一步リードしているようだが、人口や市場規模を考えれば日中で力を合わせることがより重要な意義を持つ。化粧品にとってのSDGsは何か？そのあり方や成功例など、この分野での交流に関して、今後協会として日本の現状を中国側に紹介しながら、少しずつ推進していこうと考えている。

一般社団法人日中化粧品国際交流協会 **Japan-China Cosmetic Exchange Association**

〒650-0045 兵庫県神戸市中央区港島南町 5-5-2 神戸国際ビジネスセンター TEL : 81-78-381-5304 FAX : 81-78-303-3077

<http://www.cosmo-jc.org>